

ときめき人

Tokimeki bito



登米市の自然を 残し続けたい 魅力を伝える 環境教育リーダー

豊里町・長根

高橋 由紀子さん

たかはし・ゆきこ

1945年生まれ 血液型/A型

Profile

登米町三日町生まれ。旧善王寺小、中津山小、豊里小、旧二ツ屋小などで36年間の教員生活を送る。現在は、市の「環境出前講座」で環境教育リーダーとして、児童たちに平筒沼いこいの森を案内している。



「一人でも多くの人に、登米市の自然の良さを感じてほしい。その一心で活動を続けています」とほほ笑む高橋さん。

活動のきっかけは30年前、平筒沼いこいの森を散歩していたとき。斜面いっぱい広がるカタクリの美しさに感動し、その光景が頭から離れなくなった。当時、教員だった高橋さんは、児童たちにも自然の良さを知ってもらい、学びにつなげたいと、校外授業でいこいの森の散策を提案。「始めてみると、教室では落ち着きがない子が自然の中ではリーダーになっているなど、新しい一面を発見できました」。児童が楽しみながら学習することは、意欲的に知ること、学ぶことにつながった。

危険なものを実際に見て、学ぶことも重要な

役割の一つ。「今は危険なものから小さい子を遠ざける人も多くいますが、危険なものだと知っていた方が、自分で考え対処することができるようになります」と、活動中はヘビやハチなどの危険性について必ず説明し、安全を徹底している。

退職した今も、市の環境出前講座などで自然の良さを伝え続ける。「児童たちの多くは、将来、登米市を離れるかもしれませんが、それでも、帰省した時に自分の子どもを思い出の場所へ連れて行くと思います。そうやって古里の良さが次の世代に伝わり、登米市の自然環境も守られていくと思うんです」。

今日もいこいの森では、高橋さんが見守る中、子どもたちが新しい学びを見つけ、成長している。

編集後記

▼数年ぶりに財布を購入。ほぼカードサイズで厚さは1センチ。理想の大きさに出会いました。お札15枚、コイン15枚、カード5枚が収容可能で機能も充実。機能的で極限まで無駄がそぎ落とされた財布を眺めながら、自分自身の無駄も省いていかなければという気持ちになりました。(小野寺)

▼ときめき人の高橋さんを取材した際に、初めて平筒沼いこいの森を訪れました。いこいの森は、地元の吉田コミュニティなどで手入れをしているそうで、歩きやすく自然にあふれたとても居心地の良い場所でした。市内には、まだ知らない素晴らしい場所があると気付かされました。(三浦)

▼人間ドックで肺に影があるとされ、精密検査を受けました。検査の結果、影の正体は脂肪とのこと。ランニングをしなくなっただけで、どんどん体重が増加し、過去最高を更新中。生活習慣を改善するため、また走り始めようと、5月に訪れた夏空に誓いました。(高橋)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<https://mail.cous.jp/tomecity/>

